

放課後子ども教室会津地区研修会

福島県教育委員会

〈目的〉 子どもとの関わり方に関する講演や実践発表を聞き、放課後子ども教室運営上の取組事例や課題について意見交換や協議をする。実践を学ぶための研修を行うことで、事業に携わるコーディネーターやボランティア人材の資質・向上を図る。

〈日時〉 平成29年7月12日(水) 9:30~15:50

〈会場〉 湯川村公民館

〈参加者〉 89名



講演1

「豊かなところを育てるために ~心をつなぐ紙芝居~」

講師 立正大学非常勤講師(元教授) 堺 正一氏

ご持参くださった紙芝居と絵本の読み聞かせをしながら、長年、ボランティア活動に関わってこられた豊富な体験や、紙芝居の特性や働きについて御講演いただきました。

紙芝居屋が懐かしい世代も、紙芝居屋は初めてという世代も、童心に返り、楽しい時間を共有しました。

紙芝居屋しょうちゃん 上演プログラム

- 同じテーマの作品の絵本と紙芝居の違い。

絵本の読み聞かせ「おおきなかぶ」

福音館書店 A・トルストイ 再話/内田 莉沙子 訳/佐藤 忠良 画

紙芝居「おおきなだいこん」

童心社 川崎 大治 脚本/二股 英五郎 画

- 同じ作者、同じ出版社の作品で、絵本と紙芝居ではどんな違い(演出)があるか。

絵本の読み聞かせ「かさじぞう」

童心社 松谷 みよ子 文/黒井 健 画

紙芝居「かさじぞう」

童心社 松谷 みよ子 脚本/まつやま ふみお 画

- 紙芝居の特徴がよくでている作品(絵本との違いが顕著)

紙芝居「かっぱのすもう」

童心社 渋谷 勲 脚本/梅田 俊作 画

- 高齢者向け紙芝居

紙芝居「瞼の母」

雲母書房 長谷川 伸 原作/サワジロウ 脚本・絵

- 絵本の読み聞かせに集中できない子が、紙芝居に集中する理由。

- ・ 絵本の絵はきれいで、背景も書き込まれるが、紙芝居は背景がなく中心場面のみ。
- ・ 絵本は作品通りの言葉を伝えるが、紙芝居はメッセージを伝える。
- ・ 絵本の読み聞かせは落ち着いた「静」の中で。紙芝居は、自由に好きな姿勢で。



【受講者の声】

- 絵本の読み聞かせや紙芝居の実演を見ることができて、子どもに戻ったようでした。勉強になったと思います。本当にすばらしかったです。
- とても参考になりました。読み聞かせでは集中できない子ども、紙芝居ならば興味を持って聞くことができそうです。ぜひ取り入れていきたいと思いました。
- 紙芝居にとっても引き込まれました。子供時代の紙芝居を楽しみに待ち焦がれていた頃を思い出します。やはり、大切な文化のひとつだと思います。いつまでもこの「ミニ劇場」を継承していけたらと望んでいます。
- 紙芝居の良さ、役割を改めて認識させられました。地域のテーマなどを紙芝居にして上演を計画したいと思います。

実践発表

「会津美里町放課後子ども教室の取組」

発表者 わくわく宮川コーディネーター 谷澤 幸代 氏

放課後子ども教室を学校で開催するとき、どのように連携を取っているか、具体的な例を挙げながらの実践発表でした。必要な打ち合わせの場や情報交換を密に行うことで、子ども教室の活動を「楽しく」「安全に」行うことができる事例は、他の教室でも参考にできると感じました。



1 学校で行う放課後子ども教室のよさ ～学校との連携～

- 学校との打ち合わせ（年3回）
 - 緊急時の学校との連絡体制
 - 開校・閉校式への校長先生の参加
 - 配慮の必要な子について情報交換
- 毎回、学校の先生と顔を合わせるので、子ども達の様子を聞きやすい。

2 活動について（年間26回）

- 元気な子どもたちなので、主に、運動中心のプログラムを組んでいる。

【プログラム紹介】

とし子先生と遊ぼう・シャボン玉をとばそう・防犯すごろく・自由遊び・新年遊び
縄跳び（短縄・長縄・縄跳び検定）
ペットボトルロケット・会津美里自然楽校体験活動（町文化祭出品）

【受講者の声】

- 放課後子ども教室での活動内容を聞いて、大変参考になり良かったと思います。
- 他の教室の実践発表は参考になりました。



講演2

「個性的な子どもたちとの関わり方」

講師 福島県立猪苗代支援学校教頭 江見 浩二氏

楽しい自己紹介に始まり、場が和んだところで、支援の必要な子供達の行動や、具体的な関わり方について御講演いただきました。

講演の中で、「視点を変えると見えてくるもの」のクイズを通し、様々な視点から子どもたちを見守る目が必要であることもお話いただき、受講者の皆さんも頷きながら聞かれていました。



【個性的な子どもたちとは】

- ◎ けんかっぱやい・かんしゃく持ち・声大きい・静か…
- 気づきにくい。周りが気づいてあげる。配慮する。
→ 子どもたちを丁寧に見る。
- 特性や行動の背景・要因を考える。
→ 行動には理由があり、「おかしい」のではなく自己調整している。

【子どもたちに関わる上で大切にしたいこと】

- 子どもの立場・視点で考える。
- つまずきの背景要因を探る。
- 多様性を認める。



【おわりに】

子どもと高齢者のふれあいを通して、子どもは落ち着いてじっくり話を聞くようになったという研究報告は、放課後子ども教室での子どもたちの活動に通ずるものがある。

「地域で学ぶ」といわれている今、支援学校の生徒もぜひ地域の放課後子ども教室で受け入れて欲しい。

【受講者の声】

- 江見先生の話、とっても勉強になりました。分かりやすく子どもたちとの関わり方を聞いてよかったです。
- 江見先生のお話、分かりやすくよかった。いくつかの例をもとにもっとお話を聞きたい。次回にもお願いしたい。
- 研修に参加して、色々勉強になりました。特に、江見先生の講演は、現時点で事業を行う上での悩みだったので、とても参考になりました。
- 気になる子どもへの対応の仕方を詳しく教えていただき、勉強になりました。
- 江見先生のお話がとても良かったです。現場だけでなく、広く地域での理解を深めるのに分かりやすくとてもよいと感じました。

グループ協議・情報交換

それぞれの子ども教室の成果や課題、悩みなどについて



【コーディネーター等】

- 学校の一部を使わせてもらっている教室が多く、先生との連携もできている。
- 活動プログラムは、月一度コーディネーターとスタッフが集まって決めたり半年ごとに決めたり、教室の実態に合わせて作っている。
- 地域の方にお手伝いいただいて活動している。



【活動指導員・安全管理員等】

- 子どもの森でのボランティアで、環境がきれいになっている。
- 学校との連携は、コーディネーターが中心になり行っている。
- 連絡帳で、親との連携を図っている。
- 気になる子はどこにでもいる。様子を見ながらうまく対応している。



【行政】

- 学校との連携では、学校の授業量の増加により、活動時間の確保や先生方との連絡が難しい。運営委員会の活用を図りたい。
- プログラムのマンネリ化、新しい講師を探すことが難しい。子どもアンケートを通して子どものニーズに応えたい。
- 子ども一人一人を見ることは難しいが、子どもの気持ちを考えていきたい。



